

第17回常総市公共交通活性化協議会 会議録（要旨）

■開催 平成23年10月4日（火） 午後2：00～3：00 常総市石下総合福祉センター 大会議室

■出席 <委員> 飯塚委員，吉田委員，尾上委員，落合委員，沼尻委員，◎鈴木委員（筑波大学），
泰間委員（茨城運輸支局），牧瀬委員（茨城運輸支局），寺門委員（県交通対策
室長），武藤委員（関鉄），石川委員（関鉄労組），中川委員（市商工会），馬
場委員（市社会福祉協議会），中村委員（市企画部長），染谷委員（市社会福祉
課長），中久喜委員（市介護長寿課長） ※◎：委員長

<随 行> 海老根係長（県交通対策室）

<傍 聴> 長谷川さん（筑波大学大学院生）

<事務局> 企画課 小林課長補佐，金子主事

■内容

議案第1号 平成22年度歳入歳出決算について

報告第1号 予約型乗合交通ふれあい号の利用状況について

（昼間時間帯の運行体制変更後の状況報告を含む）

報告第2号 共同研究成果の発表について

そ の 他 内守谷地区新規路線バスの運行について

ふれあい号の車両の変更について

■協議内容 （◆：議長 ●：委員，▲：事務局）

開会 午後2：00

【前回のおさらい】

▲：前回の会議内容を説明。

<議案> 常総市公共交通活性化協議会委員の委嘱について

平成22年度事業報告について

昼間時間帯の運行体制の変更について

<報告> 車両の変更，利用状況報告，利用者アンケートの集計結果について

【議案第1号】

▲：「平成22年度歳入歳出決算について」説明。

●：監査委員による監査報告。

●：承認。

【報告第1号】

- ▲：「予約型乗合交通ふれあい号の利用状況について」説明。
- ：希望通りの予約が取れなかった件数は、事務局の方で把握されているか。
- ▲：その数値は把握していない。予約が取れないといったクレームは運行開始直後に比べれば、今はほとんどない状況であるが、今後数値の把握についても検討する。
- ：なかなか数値に出てこないようなニーズの把握も必要だと思う。

【報告第2号】

- ▲：「共同研究成果について」説明。
- ：資料の中で、福祉センターのカラオケと温泉施設の利用者についての記載があったが、どのような利用状況となっているのか。
- ：福祉センターを所管する社会福祉課からお答えします。温泉施設は一日平均15名程度、カラオケ施設は一日平均50名程度となっています。特に温泉施設の利用者は市内の方の高齢者がほとんどで、料金は無料となっています。
- ：研究のような最適化シミュレーションを、最適なルートを事前に組むことが出来るシステムが出来るという理解でよろしいか。
- ：このソフトではそういったシステムを実現することは難しいが、実際にオンデマンドのシステムを使っているデマンド交通もある。常総市の場合は、システムを使っているとはいえ、実際はオペレーターがルーティングをしているので、数理的に最適なルーティングは何かということを計算することが出来ます。本研究の目的は、こういった自治体にデマンドが適するのかを明らかにすることを目的にしているので、システムを構築することまでは目的にしておりません。
- ◆：補足させていただきますと、試算をする上で、さまざまな仮定をおいているので、その検証も必要だと考えています。

【その他】

- ◆：せっかく共同研究を行っていますので、委員の皆様からこういった分析を行ったらどうかというようなご要望等がございましたら、遠慮なくおっしゃっていただければと思います。
- ▲：「内守谷地区の新規路線バス運行について」、「ふれあい号の車両変更について」説明。
- ：近隣市では財政上の問題から、バスの廃止や交通体系の見直し等が行われているとの話を聞くが、常総市については、今後も継続してデマンド交通を継続していくのか。
- ▲：市としては来年度も継続して運行を行う予定です。国の補助も来年度から無くなりますが、これまで同様に継続していきます。